

インド活動報告

Namaste! 青年海外協力隊の庄原裕美といます。7月より、インドに派遣され、こちらに来て1か月がたちました。

私は鳥取県立米子西高校の英語の教員です。このたび、現職教員参加制度を利用し、かねてから興味があった日本語教育のボランティアとして、デリーの小中高一貫校で活動することになりました。

とはいえ、最初の1か月は準備期間です。インドの家庭にホームステイして、公用語であるヒンディー語の語学学校に通う日々を送りました。



【ヒンディー語の先生と、クラスメイトたち。手に持っているのはチャイのカップです】

インドに来て、いろいろと驚くことや学ぶことがありましたが、今日はとくにホームステイについて書いてみたいと思います。

私がホームステイしたのは、北デリーに住む、Mehta さん一家。親日家のお父さんとお母さん、息子夫婦にその子どもたちという3世代が仲良く暮らすご家庭です。



【日本が大好きなお父さんと、料理上手なお母さん】

インドでは、大学進学や結婚の後も、ほとんどの人が親と暮らしており、家族をととても大事にしています。家族の距離感も、日本と比べてとても近いなと思いました。ご夫婦の部屋や子ども部屋というのは基本的に決まっておらず、みんなが自然に空間を行き来しあう、風通しの良い雰囲気がありました。

また、宗教が生活の中心にあるのもよくわかりました。肉や魚は調味料さえも口にしない菜食主義の食事。1日のあらゆる場面で、自然となされるお祈り。そして週に何回かは、家族みんなでお祈りの会に出かけます。その会では、子どもたちも退屈することなく、地域の大人と歌を歌っていました。



【ミシカ(11歳)、ガルヴィット(7歳)、2人の家庭教師ヴィシャーリ】

ホームステイをして、とくにびっくりしたことが3つあります。1つ目は、食べ物が何でも手作りであること！たとえば、北インドでは、チャパティという、平らなパンが主食なのですが、毎朝お母さんとお嫁さんが粉をこねて1枚ずつ焼いてくれていました。その他、マンゴーシェイクや、ヨーグルトなど、「さすがにこれは買ったのでは？」というものも、家庭で作っていると知り、本当に驚きました。



【ある日の朝ごはん。チャパティとダール(カレーの一種)】

2つ目は、家事のやり方の日本との違いです。日本では、電化製品も活用しながら、家事はすべて家族で分担するのが一般的でしょう。しかし、このご家庭で、皿洗いや荷物を運ぶ際に、家族以外の人に来てもらっているのを目の当たりにしました。カースト制が残るインドでは、仕事は分業制であると耳にしていたのですが、家事もそうであると知り、これもまたびっくりしました。

3つ目は、子どもたちが英語ペラペラであること！デリーには、英語を媒介としてすべての教科を学ぶ、**English Medium School** が数多くあります。(私が活動する予定の学校もその1つです。) 多言語国家インドでは、インド人同士の意思の疎通を図るのにも、英語が使われ、英語の運用力は、進学や就職に欠かせないものになっているようです。ミシカとガルヴィットも、家庭教師の先生について日々英語を特訓しており、とくにミシカは、家族と私の通訳として、英語を使って活躍してくれました。



【ミシカ、ガルヴィットと2人のお母さん（右）。一緒に近所のお宅へ。】

ホームステイの半ば、手巻き寿司を作りました。ベジタリアンである家族のために、しょうゆなしでも食べられるよう味を濃い目にし、野菜の具を準備して、日本の食文化を紹介しようと思ったのですが…。どうやらインドでは、酢を食べる習慣があまりないらしく、出来上がった寿司飯を前に、家族、絶句。日本から持ってきた海苔も、見たことがない様子。「これ、紙じゃないよね？」…。お皿に乗せるも苦戦している姿を見て、心から申し訳なく思い、謝ると、「大丈夫大丈夫」と、無理して全部食べてくれました。残った寿司飯も、「ダールと混ぜて食べるとおいしいよ」と言ってくれ、家族の優しさに触れた出来事でした。

このホームステイを通して、もっとインドのことを知りたい、日本のことも知ってもらいたいという思いが強まりました。8月から、本格的に赴任先の学校での活動が始まります。大らかでフレンドリーなインドの人たちとの触れ合いを、またご報告できたらと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。